自　然　観　察　　2023 年 10 月 15 日発行／第 141 号　　年 3 回発行

自然観察

No.141
2023.10 月

目　　次

- 参加者の声……2
- ウォッチングレポート ……2
- さあー 身近な自然観察をしましょう！ ……9
- 観察部からのお願い「来年度観察会企画募集について」 …… 11
- 編集後記・連絡先 …… 12

「シマエナガ　12 月　蘭越町名駒町にて撮影」

参加者の声

星置川親子観察会　2023/7/22

札幌市中央区　福井　宏美

7月22日(土)に星置川にて親子観察に参加しました。水生生物の観察ということで、魚以外にどのようなものがいるのか親子共にワクワクして臨みました。

当日はエビが大量に獲れ、スジエビとヌマエビの違いを知りました。

子供達は、スジエビの足先がＹになっていることを初めて見て、「これがスジエビだ!」と興奮していました。

またヘビトンボの幼虫やホタルの餌になるカワニナを見て、改めて星置川が綺麗な水質の川であることを知りました。

暑い日だったので、涼しく勉強になったひとときでした。

ウオッチングレポート

精進川観察会　2023/5/14

札幌市　鈴木　ユカリ

今年度のテーマは「生物多様性について考えてみよう。」の春バージョンで、春ならではのプログラムを企画し、事業協力として、札幌市博物館活動センター学芸員、山崎真美氏と、ＮＰＯ法人「人まち育てＩ＆Ｉ」の会員、宇久村三世氏を講師としてお招きしました。「今回の観察会では、サクラが咲き残る若葉の頃の観察会ならではの植物を観察することができました。道央地域より南に分布するとされるミツバアケビやウワミズザクラも間近で触って観察できました。精進川沿いの歩道は、札幌の街の基盤となった扇状地の地形を併せて見ることができるとても良いコースだと思います。今後も年間を通して植物にもっと近づいて観察してみて下さい」と、山崎氏から感想をいただきました。「気温が20度を超えた、晴天の中での精進川観察会。私は野草の料理を担当させていただきました。ペスト（ジェノベーゼ)、味噌和え、油炒め、醤油麹和え、お茶などを出しました。灰汁抜きに時間がかかるものは、薄くスライスして流水に晒すなどの工夫を施しました。定番の天ぷらも美味しいのですが、胃腸に負担がかかるため、ぜひ参考にしていただけたらと思います。ご参加いただいた皆様有難うございました。」と、宇久村氏から感想をいただきました。

前回同様、参加者の感想文を一部抜粋して記載します。

・生命力の強い外来種に負けないよう、小さな植物がこれからものびのびと生きてほしいと思います。

・雑草と言われる草花にも、各々の存在感があり、各々の生き残る理由や、生き残り方があって感

動しました。

・人に、地球に、やさしい環境を保つためには、色々な相互作用が必要だと思うので、守っていかなければいけないことだと思います。

以上になりますが、皆さん自然に対する関心の高さがうかがえる観察会となりました。

石狩南防風林観察会　2023/5/20

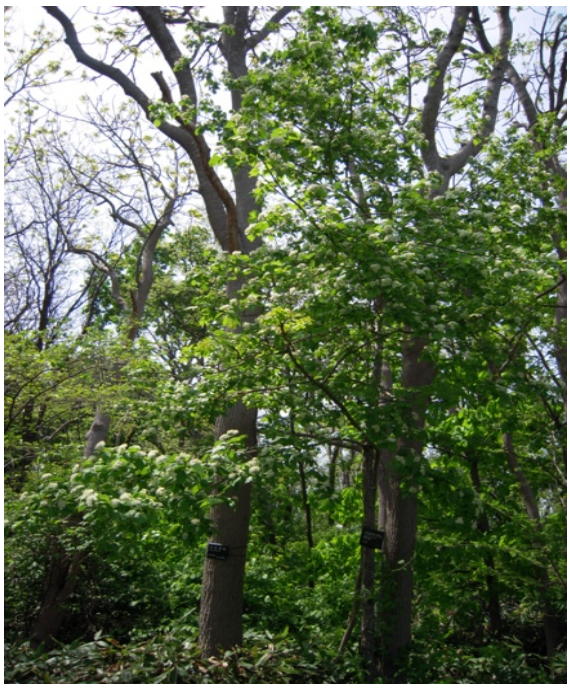
札幌市　石岡　真子

現在の石狩海岸から５～６㎞内陸に「紅葉山砂丘」の痕跡が、今でも点在しています。約 6000 年前の縄文海進とそれに続く海退によって、海が陸地化していく中で形づくられた、１～２ｍの起伏の「花畔砂堤列」も、この花川南防風林の地形に残されています。

明治２６年、原野を開拓した時に、風を防ぐために「風防林」として伐採せずに残され、現在は国有保安林に指定されている、花川南防風林です。

時に、ドロノキやヤマナラシなどの綿毛が舞う中、森に入っていくと、クルマバソウが最盛期とばかりに咲いていました。残念なことに、オオタチツボスミレの花は終わり、オオバナノエンレイソウは林縁にかろうじて残っているだけでした。

ヤチダモの葉が開くのが、森の木々のなかではひと際遅いため、森の中に光が届きます（①）。



①　ヤチダモの展葉は遅い

クロミサンザシ（バラ科）の開花直後だったので、花の香りを堪能してもらいました。「魚の干物」「魚の腐ったにおい」「嫌な臭いではない」「おいしそう」等々の感想。ハエ類が好みそうなにおいで、花の周りに多くの虫たちも集まっていました（②）。

②クロミサンザシ

チリメンドロ（ニオイドロ）の葉を触ると、べたべたして、サロメチールのようなにおいでした。

カシワモドキ（カシワとミズナラの雑種）は、この森に数本あります。葉のふちの切れ込み（鋸歯）が波打っている様子と、落ちた実の殻斗（去年のものか）にカシワの特徴が出ています。

エゾノウワミズザクラの花は終わっていました（③）。エゾノウワミズザクラとクロミサンザシは、氷河期から生き残り、現在にその姿をとどめている北方系の希少樹種 13 種の中に入っています（森林総合研究所）。そのうちの 2 種が花川南防風林には、点在しています。

洋上風力発電の高圧送電管の埋設工事が防風林の周辺で行われ、来年からは実際に電力が通される中で、また、防風林の林床にササが多くなり、地下水位の低下と植生の変化が心配される中、これから先もずっと楽しい観察会が続けられることを願っています。

③ニオイドロの前で

④エゾノウワミズザクラ

春の紋別岳観察会　2023/5/27

千歳市　林　祐子

久しぶりの開催となった、春の紋別岳山麓での観察会。の予定が、前の週に紋別岳で熊が２回目撃されており、安全を期すため支笏湖湖畔と国民休暇村周辺での観察会に急遽変更。ここ数年では考えられないぐらい多くの方に参加して頂いたが、指導員２名はびっくり仰天、熊騒動も含めてアタフタ。天気にも恵まれ、参加いただいた方々の多大な協力もあり、なんとか無事終えることができた。

観察会全般としては、参加者の方達で色々お話されていたり、見つけたものをみんなで観察したり、色々発言もして下さったりで、和気あいあいとした、和やかな観察会となった。

初夏のウトナイ湖観察会　2023/6/3

苫小牧市　谷口　勇五郎

曇り時々雨の日でした。植苗駅前に植えてある大きなイチイから始めました。
道道脇の歩道を歩きながら、主に花の咲いている草木を取り上げました。ウツボグサ、カモガヤ、ヒメスイバ、コウリンタンポポ、スズメノヤリ、クサノオウ、コケイラン、ヤマハタザオ、チョウセンゴミシ、ヤマグワ、ワタゲカマツカ、ズミ、ミヤマザクラなど。

一面に咲いていたものはノハラムラサキでした。似たものにノムラサキやワスレナグサ、エゾムラサキなどがあり、若干違いを説明しました。太くて大きいコウライテンナンショウがありました。雌雄の違いや、その転換、かつての食べ方について話しました。

数か所でウグイスの声があり、センダイムシクイ、アオジのさえずりもありました。
オオジシギのディスプレイフライトが見られました。エゾアカヤマアリのアリ塚が数個ありました。ジョウカイボン（甲虫）やエゾハルゼミもいました。

蘭島と忍路観察会　2023/7/2

小樽市　岡部　実

出発時は晴れで気温は２０℃ほど。始まりは、海浜植物の観察。年々、数を減らしている印象を受けるハマヒルガオ、コウボウシバ、コウボウムギ、ハマニンニク、オカヒジキなどの一方で勢力を増しているオニハマダイコンなどが確認できました。蘭島海岸は海開きの１週間前で、人出がまばらで観察には最適でした。

蘭島海岸の最北部から忍路へ向かう観音坂へ入ると樹木が繁り、ひんやりとした空気の中、途中、イチゴ栽培農家の方のご厚意で「もう、最盛期は終わったから」と１００円の自己負担で参加者全員イチゴ狩りを楽しみました。

忍路までの峠道では、オオウバユリ、ヤマグワ、マタタビ、サルナシ、スモモ、エレイソウの巨大な果実などを観察。忍路湾では、1000 万年前～500 万年前の海底火山噴出物であるハイアロクラスタイト（水中火山砕せつ岩）と枕状溶岩を観察しました。予定の観察コースを終え、お開きとなったとき、祭りのお囃子が聞こえてきました。忍路神社の例大祭の神輿巡行です。この日は、神輿が手漕ぎ船に乗って湾内を一周することはなく、神社から港までの往復だけでしたが見学できて幸運でした。

その後、指導員で竜ケ岬（りゅうがさき）まで足を伸ばしてみようと思い立ち、参加者の皆さんにお声がけをしたところ、全員で行くことになりました。岬ではエゾカンゾウの花期は終わっていたものの、カセンソウ、エゾノカワラマツバ、エゾネギなどを観察し、断崖絶壁の連なる絶景を堪能しました。

蘭島海岸

忍路漁港

竜ケ岬 1

竜ケ岬 2

夏の錦大沼観察会　2023/7/9

苫小牧市　白崎　均

深い森の木々が葉を茂らせ、実をつけています。今年も立派な森になるでしょう。
今日は 15 名の参加者です。森の木と林下に目をやると、カエデ、サクラ、クワなどが実を付けて青々としています。林下には、オニノヤガラ、沼にはコウホネ、水辺にはナツハゼが花を咲かせています。その脇には、小さくてかわいいウメガサソウが楽しませてくれました。ツウルアジサイ、ヤマウルシの実、そしてベンケイウツギも咲いていました。

この公園は、市のショウブ園の花が咲き誇り、市民の方が多数訪れており楽しんでいます。今日は日曜日なので、他のグループの観察会もあり、皆さん自然を楽しんでいるようでした。

菅原農園観察会　2023/7/9

札幌市　鈴木　ユカリ

最高気温が 31℃まで上がる予報の中、熱中症対策を行って開催をしました。仕事で田んぼに入ったことがあるという参加者、小学生の時に入ったきりと話される参加者、今回初めて田んぼに入るという参加者が集合されて、それぞれ田んぼに対する思い入れもひとしおだったのではないでしょうか。共催の「札幌南ふゆみずたんぼの会」からのご厚意により、鹿の頭蓋骨、牛の頭蓋骨、ケブカスズメバチと思われる空の巣を展示していただきました。牛の頭蓋骨ではこれ何の質問に対して子供たちの珍回答に場が和み、正解を発表すると大人たちが「へえー」と関心を示してくれていました。子供たちでは限界があるため前日にしかけていたトラップには１５㎝近くあるドジョウを採集でき、ケースから飛び出す力強さを前にして、生き物を大切にしてほしいとメッセージを伝え終了しました。日本自然保護協会が取り組んでいる、すべての子供に自然を！プロジェクトに微力ですが届けたいです。

秋の紋別岳山麓観察会　2023/8/26

千歳市　林　祐子

春の観察会は多数の方に参加頂きましたが、秋の観察会は熱中症警戒アラートが発令されていた為か、３名の参加でした。こまめな水分補給と塩分補給に気を配りながら、何事も無く無事終えることができました。

ハリギリ・イタヤカエデ・ハウチワカエデ・ヤマモミジなどの手の形をした葉の観察、ミソガワソウやエゾクロクモソウ、オニルリソウやウマノミツバの種の観察など行いました。たまたま出会えたハチの幼虫やアオダイショウにも大きな声があがり、終始和やかな観察会となりました。

赤岩遊歩道観察会　2023/9/10

小樽市　吉田　陽子

歩き始めてすぐ一般家庭の庭に柿の木と林檎の木が登場(下見の時点で観察の許可を頂きました)。早速観察素材にします。柿は子房の壁が厚くなった部分を果肉として食している(真果)こと、梨や林檎は子房以外の花床等を果肉として食していること(偽果)等説明し、参加者はまだ青い柿の実を見上げて、真剣に聞きいっていました。また、下見の時に見当たらなかったツノハシバミの実を、予め準備した画像で紹介している時です。参加者から「実がなってる」の声。皆で入り組んだ枝の中を覗き込み、あったね、良かったねと喜んでいたら「ここにもあります」と別の場所になっている実も見つかりました。画像で説明を聞き、直後に自分で実物を見つけた参加者が大変喜んでいる姿に、自然観察の喜びの原点を参加者の方から教えて頂いたような気持ちがしました。

他にイタドリの雄花と雌花、ノブドウ、シュウメイギク、アケビ、ヌスビトハギ、ミゾソバ、アオミズ、ミズヒキ、キンミズヒキ、ツリガネニンジン等を観察しました。赤岩のテーブルリッジ等から、積丹海岸の絶景も望むことか出来ました。

赤岩山方面展望

日和山灯台方面の展望

さあー 身近な自然観察をしましょう！

スズメの隠れ家、お宿は

道内、何処に住んでおられてもスズメとカラスに御目にかかれないと云う所は無いと思います。私の住んでいる所は、札幌の西はずれですが、幸い山、川はもちろん、近くには海もあるという自然に恵まれた所です。だから、スズメ、カラスはもちろん、その他の野鳥もおりますし、野草、野花、魚、昆虫などいろいろな種類の生き物たちが、まだいます。

そこで、話を戻して、とくにスズメですが、これは一時、その数を減らしたことはありましたが、今は元に戻ったようです。

私の所でも冬期間のみ、バードテーブルを設置しますが、メイン客はスズメです。

毎日、給餌時刻前に、バードテーブル傍にあるトウヒ(プンゲンストウヒ)の中で待っていて、給餌するとすぐさま、飛んできます。バードテーブルは小さいので、何十羽も来たスズメたちが全員、テーブルの中に入れません。そこでバードテーブルのすぐ傍に伸びているハクモクレンの枝に行儀よく一列に順番で並ぶのです。

餌を食べているスズメも、何時までも食い意地を張らず、次に待っているスズメに場所を譲り渡すのです。たまにテーブルの上で諍(いさか)いを起すものもいますが、ほぼ仲良く、譲り合いの精神でやっています。見ていても微笑ましい限りです。

また、スズメたちは、本当におしゃべりの好きな鳥ですね。食事中も引っ切り無しにおしゃべりをしています。このおしゃべりという認識は、もちろん、筆者がそう認識していることなのですが、筆者はこれは本当のことだと痛感しています。というのは、最近、シジュウカラがいろいろな言葉を仲間同士で語り合っているということが、テレビで放送されました。この鳥より、普段から常に集団で行動するスズメなら、仲間同士で情報交換をしていることは間違いないと思っています。ただ現在、私達人間は、そこまで解明していない故、判っていないだけで、スズメたちは、それなりにしゃべりあっていると思います。

最後にもう一点、スズメたちを観察して気づいたことは、筆者の所にあるトウヒはもちろん、バードテーブル傍にあるオンコの木もそうですが、そうした針葉樹の樹々が隠れ家とか塒(ねぐら)つまりお宿としてどうしても必要だと感じています。危険を感じた時、とりわけタカ、ワシなどの猛禽類に襲われそうになった時は、格好な非難場所となっています。

近所の庭にあるオンコの木の傍に来たら、スズメたちの賑やかなおしゃべりの声が聞こえて来ることがあります。「アレッ、何処で鳴いているのかな」と辺りを見回しても見当たりませんが、その鳴き声の発生源を探るとオンコの木の中から発されていたということがしばしばあります。夕方にも同じように、オンコの木からスズメたちの鳴き声が聞こえて来ることがあります。

このように、オンコとか、トウヒ、トドマツなどの針葉樹は、スズメたちにもなくてはならない大切な木になっていることが良く判ります。

レースの編み物か銀河にも見えるノラニンジン

今年もまた、お盆を迎えました。毎日、札幌は30度の高温で、大変でした。
夜も中々、寝苦しい熱帯夜もあり、年寄、病気の人などは熱中症に罹らないように気を付けねばならなくなっています。

ところで、そんな暑い日々が続く今日この頃ですが、早朝、夕暮れに近所を散歩すると、非常に目に付く花があります。

ノラニンジンです。セリ科ニンジン属の植物で、路傍、草地などに生育しています。ヨーロッパ原産の外来植物です。高さ30〜100ｃｍほどで、この花の特徴は、その葉がニンジンに似ていることと白い花の形がレースの編み物に似ていることです。

一番目立つ花から説明すると、この花は個々のものは、4〜5㎜ほどの5弁からなる小さなものですが、それらが茎頂に多数集まって一つの塊の花に見えるのです(複数形花序と云う)。したがって離れた所から見ると、楕円形、あるいは円形の白い花が咲いているように見えるのです。
その様子が、丁度白いレースの編み物に見えるのです。この点、英語でもレースフラワーと呼ばれています。

筆者は、それらレースの編み物をしたことは無いのですが、よくテーブルの上に、飾られているレースの編み物を見かけますが、非常にこれに似ています。
そんなことで、これらレース編みの経験のある方は、この花を見たら何とレース編みに似た花だと思うに違いありません。ひょっとすると原産地のヨーロッパで盛んにつくられたレース編みは、このノラニンジンの花を見て、ヒントを得て作ることを思い立ったのでないかと推測もしているところです。

このレース編みに似ていることについては、私もその通りだと強く思っていますが、もう一つの特徴の葉のことについて触れたいと思います。
この葉は2〜3回からなる奇数羽状複葉と専門用語ではなっていますが、要するにニンジンの葉にそっくりだということです。したがって、この葉を見たら、ニンジンの仲間で、野良に生えているノラニンジンだということを聞けば、素直に受け入れられるものと思われます。
次に私がもう一つ似ているなと思っているのは、この花が多数咲き誇っている様が、何か宇宙に彷徨う銀河に似ているのでないかと感じています。
銀河の形と云うのは、様々あるのですが、一般的に多いのは楕円形もしくは円形のものが多いのです。ノラニンジンも、丁度そのような形をしていて、見ようによっては銀河にも見えます。ましてや群落で咲いているのを見ると、宇宙に彷徨っている銀河達に非常に見えてくるのです。
このように見えるのは、宇宙に興味を抱いている筆者ならではの見方かもしれません。

いずれにしても、レース編みとか銀河にも見えるこのノラニンジン、他の外来植物と違って何か、親しみ・興味などが惹きつけられる中々、魅力的な植物だと筆者は感じています。読者の皆様方も散歩の時、ジックリご覧してみて下さい。

なお、ノラニンジンという名の由来は、野良に生えているニンジンという意味で、ニンジンの野生化したものという意味です。この点、英語でも同じ様な意味合いを込めてワイルドキャロットと表現しています。根は白い紡錘形の細い直根で非常に辛いそうです。わが国では昭和初期に植物学者の牧野富太郎博士によって発見され命名されています。

（山猿）

観察部からのお願い

『来年度観察会企画募集について』

今年もまた来年度の観察会企画募集の時期となりました。観察部では、全道各地の皆さんから、来年度の観察会企画を広く募集します。

ついては、今年度観察会予定表に準じ、「月日」・「観察地」・「テーマ」・「集合場所・時刻」・「交通機関」・「参加費」・「連絡先」等の各項目を記載し下記宛て郵送、またはメールにてお送りください。
定員を設ける場合は申込方法など詳細を合わせて記載して戴くようお願いします。「参加費」について、特に記載のない場合は200円としますので、ご了承ください。
また、下見日程の決まっている観察会については、下見日も併せてお知らせください。
「観察会予定表導員用」に記載いたしますので、よろしくお願いします。

募集期間は、**2024年1月31日**までとし、観察部にて日程調整などの検討を加えた上で、来年2月の理事会に提出する予定です。

なお、追加および訂正は、**2024年2月末**まで受付します。

観察部　山形誠一　〒064-0946　札幌市中央区双子山1丁目12-14
Mail　seiichi.y@jcom.home.ne.jp
ＴＥＬ　011-551-5481　携帯　090-6267-4961

（編集後記）

今年の夏は全国的に猛暑となり北海道も例外ではありませんでした。本年 9 月 1 日付け気象庁報道発表（夏（6～8 月）の天候）によると、北海道の平均気温は平年差＋3 度。これは 1946 年の統計開始以降、夏としては最高だったようです。道内では公立小中学校でのエアコン設置や熱中症で搬送される方が多かったことがニュースで取り上げられていましたが、会員の皆様におかれても身近なところで様々な猛暑の影響があったことと思います。

私の場合は、8 月下旬に野鳥や小動物観察のため道東地域に行きましたが、現地では初体験の大発生していた蚊（ヌカカ）に悩まされました。地元の方にお聞きすると、この時期としては今年が初めて、今夏の異常な暑さによるのではないかとのこと。また、塩湿地で楽しむことができるアッケシソウ（サンゴソウ）は例年よりは疎な状態になっていると感じました。これも異常な暑さによるのではと説明される方がおられました。地球温暖化等による長期的な気候変動の影響は、報道されていないところ身近なところで徐々に広がっていそうだと感じながら帰路につきました。

疎になったと感じたアッケシソウ（道東の塩湿地にて）

ネットはもとより生成 AI 等新技術が何かと話題となる昨今、どこにいても ICT ツールを駆使することで多岐にわたる情報は入手できますが、今回の観察旅行では実際に現地で現物を確認して実感することの大切さを再認識しました。また、日進月歩の ICT ツールの使いこなしや知り得た情報等を理解して頂くためのコミュニケーション力の向上、現地の方々との人脈作りが私的課題と認識しました。これら課題に関して既に実践するように努められている方々を知る機会にもなり、とても励みになりました。（田守）

自然観察 2023 年 10 月 15 日/第 141 号　年 3 回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます)
発行　北海道自然観察協議会
編集　北海道自然観察協議会編集部